幸福度からみた総合計画の検討手法（案）

市民の幸福を目指した逆算

市民の幸福（ウェルビーイング）を高める

①ウェルビーイングとは

ウェルビーイング（Well-Being）とは、世界保健機関（WHO）の憲章で提唱された広い意味での健康を示す言葉で、「人々が身体的・精神的・社会的に満たされた状態が続くこと」を指し、「人が幸せを感じている状態」とも言えます。自分らしさや地域での人間関係、自分が住んでいる環境（住宅環境や都市機能）などさまざまな要因の組み合わせで成り立ちます。

②なぜ今、ウェルビーイングが重要なのか

近年、人口減少や経済成長の停滞を背景に、これまでの「物質的な豊かさ」から「生活の質」や「心の豊かさ」を重視する価値観への転換が進んでいます。また、経済成長が必ずしも生活満足度や幸福感につながらないことが明らかになってきていることから、ウェルビーイングの重要性が高まっています

③全国で進むウェルビーイングを活用した取組

デジタル庁が進めている「デジタル田園都市国家構想」では、「心ゆたかな暮らし」と「持続可能な環境・社会・経済」の実現を目指すなか、構想における指標として「地域幸福度（Well-Being）指標」を正式採用するなど、国としてもウェルビーイングの向上を推進しています。また、全国の自治体でもウェルビーイングを政策デザインに活かす方法が進められています。

④地域幸福度（Well-Being）調査とは

市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）を数値化・可視化したものである地域幸福度（Well-Being）指標を測るため、国（デジタル庁）において令和4年度から毎年実施している調査となります。市民アンケートによる主観指標と、オープンデータによる客観指標から構成されています。

⑤高砂市におけるウェルビーイングの向上を目指す取組

高砂市では、市の最上位計画である総合計画において、市の将来像として「暮らしイキイキ未来ワクワク　笑顔と思いやり育むまち　高砂　～SDGsで共に夢を描こう」を掲げており、この将来像の実現に向けて、「地域幸福度（Well-Being）指標」を活用し、市民の皆さまの幸福感と相関の強い分野を分析しつつ、政策立案に役立てたいと考えます。

地域幸福度調査（全国アンケート調査）

モニターへメール等による依頼の後、インターネットで回答。
対象者は
①性年代や地域の偏りが無いようにするための「母集団準拠回収」
②なるべく多くの自治体から幅広く回答を得るため、母集団構成比を考慮しない「人口規模別回収」の2種を併用。
令和5年は約85,000人、令和6年は約101,000人の回答。うち、高砂市民の回答は令和5年、6年とも100人ほど。
母集団が10万人の場合、必要なサンプルは380～400人程度と言われているため、高砂市の傾向を測るにはサンプルの増が必要である。

回答者属性	20･30歳代	40･50歳代	60歳～
兵庫県（令和5年度）	12.0%	47.3%	40.7%
兵庫県（令和6年度）	9.7%	47.9%	42.4%
高砂市（令和5年度）	11.5%	52.2%	36.3%
高砂市（令和6年度）	12.9%	57.4%	29.7%
高砂市（令和5年住基）	24%	33%	43%

ステップ①　「全体幸福度に繋がる因子（要因）」の調査

ステップ②　「幸福因子に繋がる市の政策」の調査

ステップ③　「幸福因子に繋がる市の政策」の市民の評価（満足度）

ステップ① 「全体幸福度に繋がる因子(要因)」の調査

幸福度調査結果から、全体幸福度と相関の高い因子を調べる(人はどんな要因により全体的な幸せを感じるのか)

地域幸福度調査(全国)

(0.7以上)相関が非常に強い、(0.4～0.7)相関が強い、(0.4未満)相関が弱い

幸福度 因子との相関係数
地域幸福度調査「あなたはどの程度幸せですか。」との相関

大因子	小因子	令和5年度(回答)84,965	令和6年度(回答)101,498
生活環境	①医療・福祉	0.28	0.28
	②買物・飲食	0.22	0.23
	③住宅環境	0.39	0.39
	④移動・交通	0.16	0.16
	⑤遊び・娯楽	0.19	0.20
	⑥子育て	0.28	0.28
	⑦初等・中等教育	0.25	0.24
	⑧地域行政	0.28	0.28
	⑨デジタル生活	0.21	0.23
	⑩公共空間	0.37	0.37
	⑪事故・犯罪	0.26	0.27
	⑫都市景観	0.24	0.25
	⑬自然景観	0.25	0.26
	⑭自然の恵み	0.26	0.26
	⑮環境共生	0.23	0.24
	⑯自然災害	0.26	0.26
人間関係の地域	⑰地域とのつながり	0.37	0.38
	⑱多様性と寛容性	0.23	0.25
自分らしい生き方	⑲自己効力感	0.46	0.48
	⑳健康状態	0.51	0.52
	㉑文化・芸術	0.35	0.36
	㉒教育機会の豊かさ	0.30	0.30
	㉓雇用・所得	0.28	0.29
	㉔事業創造	0.26	0.27

満足度 因子との相関係数
地域幸福度調査「あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。」との相関

大因子	小因子	令和5年度(回答)84,965	令和6年度(回答)101,498
生活環境	①医療・福祉	0.42	0.44
	②買物・飲食	0.40	0.43
	③住宅環境	0.43	0.42
	④移動・交通	0.31	0.34
	⑤遊び・娯楽	0.31	0.34
	⑥子育て	0.41	0.43
	⑦初等・中等教育	0.39	0.41
	⑧地域行政	0.43	0.47
	⑨デジタル生活	0.33	0.36
	⑩公共空間	0.55	0.56
	⑪事故・犯罪	0.41	0.44
	⑫都市景観	0.36	0.38
	⑬自然景観	0.32	0.34
	⑭自然の恵み	0.29	0.28
	⑮環境共生	0.31	0.33
	⑯自然災害	0.36	0.38
人間関係の地域	⑰地域とのつながり	0.48	0.49
	⑱多様性と寛容性	0.35	0.37
自分らしい生き方	⑲自己効力感	0.42	0.42
	⑳健康状態	0.43	0.42
	㉑文化・芸術	0.44	0.45
	㉒教育機会の豊かさ	0.40	0.42
	㉓雇用・所得	0.39	0.42
	㉔事業創造	0.37	0.40

地域幸福度調査(高砂市)

(0.7以上)相関が非常に強い、(0.4～0.7)相関が強い、(0.4未満)相関が弱い

幸福度 因子との相関係数
地域幸福度調査「あなたはどの程度幸せですか。」との相関

大因子	小因子	令和5年度(回答) 113	令和6年度(回答) 101
生活環境	①医療・福祉	0.20	0.35
	②買物・飲食	0.16	0.35
	③住宅環境	0.44	0.39
	④移動・交通	0.08	0.28
	⑤遊び・娯楽	0.20	0.16
	⑥子育て	0.18	0.23
	⑦初等・中等教育	0.10	0.12
	⑧地域行政	0.22	0.30
	⑨デジタル生活	0.26	0.19
	⑩公共空間	0.39	0.31
	⑪事故・犯罪	0.28	0.26
	⑫都市景観	0.20	0.19
	⑬自然景観	0.18	0.20
	⑭自然の恵み	0.35	0.20
	⑮環境共生	0.11	0.17
	⑯自然災害	0.24	0.24
人間関係の地域	⑰地域とのつながり	0.28	0.32
	⑱多様性と寛容性	0.15	0.27
自分らしい生き方	⑲自己効力感	0.57	0.61
	⑳健康状態	0.63	0.57
	㉑文化・芸術	0.39	0.28
	㉒教育機会の豊かさ	0.36	0.18
	㉓雇用・所得	0.41	0.25
	㉔事業創造	0.33	0.28

満足度 因子との相関係数
地域幸福度調査「あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。」との相関

大因子	小因子	令和5年度(回答) 113	令和6年度(回答) 101
生活環境	①医療・福祉	0.35	0.47
	②買物・飲食	0.34	0.47
	③住宅環境	0.47	0.34
	④移動・交通	0.18	0.37
	⑤遊び・娯楽	0.35	0.35
	⑥子育て	0.33	0.45
	⑦初等・中等教育	0.26	0.34
	⑧地域行政	0.39	0.44
	⑨デジタル生活	0.33	0.26
	⑩公共空間	0.53	0.49
	⑪事故・犯罪	0.37	0.33
	⑫都市景観	0.33	0.40
	⑬自然景観	0.30	0.31
	⑭自然の恵み	0.41	0.27
	⑮環境共生	0.21	0.24
	⑯自然災害	0.25	0.28
人間関係の地域	⑰地域とのつながり	0.44	0.42
	⑱多様性と寛容性	0.30	0.36
自分らしい生き方	⑲自己効力感	0.46	0.39
	⑳健康状態	0.57	0.44
	㉑文化・芸術	0.50	0.37
	㉒教育機会の豊かさ	0.46	0.26
	㉓雇用・所得	0.50	0.37
	㉔事業創造	0.46	0.45

(仮説①) 人は**「⑳健康状態」、「⑲自己効力感」、「③住宅環境」**、「⑩公共空間」、「㉑文化・芸術」、「㉓雇用・所得」が満たされれば、全体の幸福を感じる。

※幸福度と満足度は≒(幸福度と満足度の相関は0.8)だが＝ではない。けれども、両方大事という形で満足の相関係数高い因子をピックアップするのも良いと思う。

ステップ② 「幸福因子に繋がる市の政策」の調査

人は「⑳健康状態」、「⑲自己効力感」、「③住宅環境」、「⑩公共空間」、「㉑文化・芸術」、「㉓雇用・所得」が満たされることで全体の幸福を感じやすいと仮説
→ しかし、幸福度はあくまで総論としての因子（政策に対してというわけではない）。
→ 市民満足度調査での重要度とリンクさせたいので、市民満足度調査の政策を因子分類する（地域幸福度調査・市民満足度調査 比較対象表参照 ※分類は改めて見直す必要あり）

高砂市市民満足度調査（令和5年度）

順位	政策・施策明の重要度	重要度
1	（健康・医療政策）医療サービスを安心して受けられるまち	81.03
2	（産業政策）毎日の生活を支える買い物ができるまち	78.09
3	（防犯・消防・防災政策）犯罪、事故から市民を守るまち	78.09
4	（健康・医療政策）健康に過ごしやすいまち	77.94
5	（防犯・消防・防災政策）災害から市民を守るまち	77.65
6	（福祉政策）高齢者になったときも安心して生活できるまち	75.29
7	（まちづくり政策）暮らしに良好な住環境のまち	74.41
8	（公共施設政策）社会インフラ（道路・上下水道）が整備されたまち	72.50
9	（こども支援政策）安心して子どもを生み育てることができるまち	72.06
10	（公共交通政策）公共交通が暮らしの利便性を向上させるまち	71.76
11	（こども支援政策）みんなが子どもの安全と成長を支えるまち	71.62
12	（教育政策）子どもが学ぶ力を育むまち	68.82
13	（福祉政策）地域で自立を支え合い、つながり合うまち	66.32
14	（福祉政策）障がいがあっても安心して生活できるまち	66.32
15	（人権政策）個人が尊重し合い、安心して平和に暮らすまち	65.59
16	（情報政策）情報をわかりやすく公開し、意見が反映されているまち	63.38
17	（環境政策）緑、水辺、公園など自然が豊かなまち	62.21
18	（公共施設政策）公共施設が気持ちよく利用できるまち	62.21
19	（移住・定住・関係人口政策）地域に魅力を感じるまち	60.59
20	（行財政運営政策）適切な行財政運営ができているまち	60.59
21	（労働政策）働きやすい魅力的な職場があるまち	60.29
22	（環境政策）環境にやさしい暮らしがあるまち	59.56
23	（職員育成政策）市民が求める能力を持つ市役所職員が育つまち	57.06
24	（職員育成政策）市役所職員が市民に寄り添うまち	56.76
25	（活躍・労働政策）誰もが社会に参加し、その人らしく活躍するまち	47.65
26	（まちづくり政策）まちなみ景観に配慮したまち	47.35
27	（産業政策）資源を活かした特色ある産業があるまち	43.24
28	（文化・スポーツ政策）豊かな生きがいとつながりを感じるまち	40.00
29	（市民活動政策）まちを考え、行動する市民活動があるまち	37.06

全体平均 63.98

幸福度調査 「幸福相関係数」
×
市民満足度調査（因子分類）
「重要度」

高砂市市民満足度調査（令和5年度） ※因子ごとに分類

順位	因子分類での重要度	重要度
1	②買物・飲食	78.09
2	⑳健康状態	77.94
3	⑯自然災害	77.65
4	⑪事故・犯罪	75.30
5	③住宅環境	74.41
6	①医療・福祉	74.21
7	⑥子育て	71.84
8	④移動・交通	71.76
9	⑦初等・中等教育	68.82
10	⑱多様性と寛容性	65.59
11	⑬自然景観	62.21
12	⑤遊び・娯楽	60.59
13	㉓雇用・所得	60.29
14	⑧地域行政	60.00
15	⑮環境共生	59.56
16	⑰地域とのつながり	51.69
17	⑫都市景観	47.35
18	㉔事業創造	45.45
19	㉑文化・芸術	40.00

※赤字は全体幸福度に繋がる因子

全体平均 63.98

※「⑨デジタル生活」、「⑩公共空間」、「⑬自然のめぐみ」、「⑲自己効力感」は満足度調査に該当設問なし→要対応

（仮説②）「⑳健康状態」、「③住宅環境」は市の政策としても重要と考えられており、全体幸福度向上に繋がるものである。 → **推し政策**
「㉓雇用・所得」、「㉑文化・芸術」は、全体幸福度に繋がるが、政策としては重要とは思われていない → **幸福に繋がるが行政に何かしてほしいわけではない。**

ステップ③ 「幸福因子に繋がる市の政策」の市民の評価（満足度）

「⑳健康状態」、「③住宅環境」は全体幸福度向上に繋がり、かつ、市民も政策として重要と考えている推し政策である。
推し政策に市民は満足しているのか。

高砂市市民満足度調査（令和5年度）

順位	政策・施策明の満足度	満足度
1	（環境政策）緑、水辺、公園など自然が豊かなまち	11.62
2	（公共施設政策）社会インフラ（道路・上下水道）が整備されたまち	11.03
3	（防犯・消防・防災政策）災害から市民を守るまち	9.56
4	（産業政策）毎日の生活を支える買い物ができるまち	8.53
5	（こども支援政策）安心して子どもを生み育てることができるまち	7.21
6	（公共施設政策）公共施設が気持ちよく利用できるまち	6.76
7	（こども支援政策）みんなが子どもの安全と成長を支えるまち	6.03
8	（人権政策）個人が尊重し合い、安心して平和に暮らすまち	4.85
9	（環境政策）環境にやさしい暮らしがあるまち	4.12
10	（防犯・消防・防災政策）犯罪、事故から市民を守るまち	4.12
11	（まちづくり政策）暮らしに良好な住環境のまち	2.35
12	（まちづくり政策）まちなみ景観に配慮したまち	1.62
13	（市民活動政策）まちを考え、行動する市民活動があるまち	-0.29
14	（文化・スポーツ政策）豊かな生きがいとつながりを感じるまち	-0.29
15	（産業政策）資源を活かした特色ある産業があるまち	-0.44
16	（健康・医療政策）健康に過ごしやすいまち	-0.88
17	（福祉政策）地域で自立を支え合い、つながり合うまち	-1.32
18	（教育政策）子どもが学ぶ力を育むまち	-1.47
19	（健康・医療政策）医療サービスを安心して受けられるまち	-1.91
20	（情報政策）情報をわかりやすく公開し、意見が反映されているまち	-2.06
21	（活躍・労働政策）誰もが社会に参加し、その人らしく活躍するまち	-2.94
22	（福祉政策）障がいがあっても安心して生活できるまち	-4.12
23	（職員育成政策）市役所職員が市民に寄り添うまち	-5.88
24	（移住・定住・関係人口政策）地域に魅力を感じるまち	-9.41
25	（職員育成政策）市民が求める能力を持つ市役所職員が育つまち	-9.85
26	（福祉政策）高齢者になったときも安心して生活できるまち	-10.88
27	（労働政策）働きやすい魅力的な職場があるまち	-11.62
28	（行財政運営政策）適切な行財政運営ができているまち	-13.09
29	（公共交通政策）公共交通が暮らしの利便性を向上させるまち	-24.26

全体平均 -0.79

幸福度調査 「幸福相関係数」
×
市民満足度調査（因子分類）
「満足度」

高砂市市民満足度調査（令和5年度） ※因子ごとに分類

順位	因子分類での満足度	満足度
1	⑬自然景観	11.62
2	⑯自然災害	9.56
3	②買物・飲食	8.53
4	⑪事故・犯罪	7.58
5	⑥子育て	6.62
6	⑱多様性と寛容性	4.85
7	⑮環境共生	4.12
8	③住宅環境	2.35
9	⑫都市景観	1.62
10	㉑文化・芸術	-0.29
11	⑰地域とのつながり	-0.81
12	⑳健康状態	-0.88
13	⑦初等・中等教育	-1.47
14	㉔事業創造	-1.69
15	⑧地域行政	-4.82
16	①医療・福祉	-5.64
17	⑤遊び・娯楽	-9.41
18	㉓雇用・所得	-11.62
19	④移動・交通	-24.26

※赤字は全体幸福度に繋がる因子

全体平均 -0.79

㉑文化・芸術は平均以上だがマイナスの満足度のため、
⑫都市景観までを満足度の高い因子とする

※「⑨デジタル生活」、「⑩公共空間」、「⑬自然のめぐみ」、「⑲自己効力感」は満足度調査に該当設問なし→要対応

（仮説③）
「③住宅環境」、「㉑文化・芸術」は、全体幸福度に繋がり市民も満足している。
「⑳健康状態」、「㉓雇用・所得」は全体幸福度に繋がるが、市民は満足していない。
→全体幸福度向上に繋がり、政策としても重要と思われている推し政策は、「③住宅環境」に満足してもらっているが、「⑳健康状態は」満足されていない。